

口永良部島の火山活動 —1999年10月～2000年1月—

Volcanic Activity of Kuchinoerabujima Volcano
—October 1999—January 2000—

福岡管区气象台
鹿児島地方气象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA
Kagoshima Local Meteorological Observatory, JAM

1. 活動概要

口永良部島では、京都大学防災研究所附属火山活動研究センターの観測によると1999年7月から火山性地震が増加した。このため、福岡管区气象台では1999年9月に新たに地震計、空振計各1台を設置し観測を始めた。

本期間（1999年（平成11年）10月～2000年（平成12年）1月）の地震回数は、10月に入りさらに増加し、1日あたり50回を超える日もあった。その後、地震回数は減少し、1月には1日あたり数回となった。また、11月23日からは島の東約10kmの海域を震源とする地震が発生し、1日あたり30回を超える日もあったが、1月にはこの地震も減少した。

第1図に1992年1月から2000年1月までの月別地震回数、第2図に1999年10月1日から1月31日までの日別地震回数を示す。これらの回数は1999年9月12日までは京都大学の観測データ、それ以後は福岡管区气象台が設置した地震計での計数による。月別回数は10月の366回をピークに減少しているが、7月以前と比べると多い状態が継続している。日別回数は、10月には多い日は50回前後に増加したが、その後増減を繰り返しながら減少し、1月には数回となった。

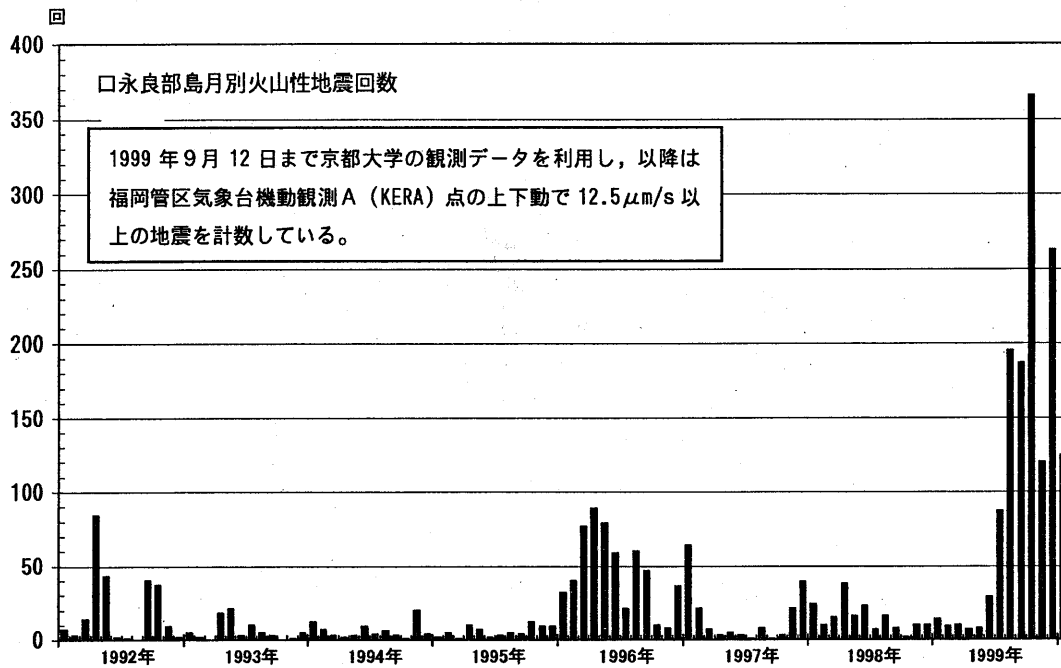
第3図に1996年5月から2000年1月までの口永良部島周辺の震央分布図（福岡管区气象台による）を示す。1999年11月23日からは口永良部島の東約10kmの海域（図中A領域）を震源とする地震が多発した。地震の規模の最大はM3.5（12月26日）であった。地震活動は2000年1月に入って低下した。なお、今回の活動域の北東側（図中B領域）では1996年5月から6月にかけてM2.9を最大とする地震活動が発生している。ただし、両期間では震源決定に使用した観測点は異なり、前者は大学や他機関を含むが、後者は含まない。

第4図に両領域での活動経過を表すM-T図を示す。

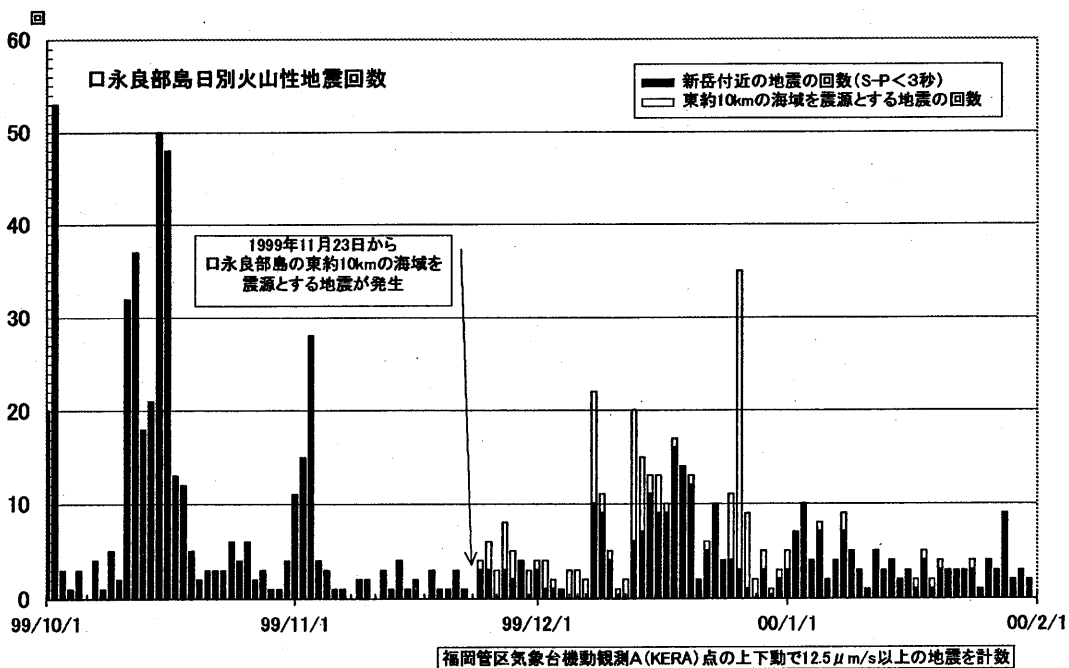
2. 火山情報の発表経過

本期間（1999年10月～2000年1月）、鹿児島气象台が発表した火山情報は以下のとおりである。

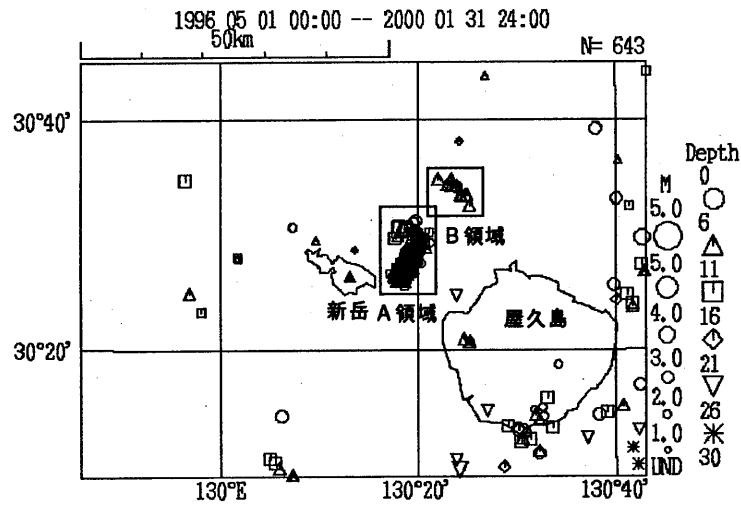
- ・火山観測情報 第4号 1999年10月4日～第12号 12月28日
第1号 2000年1月7日



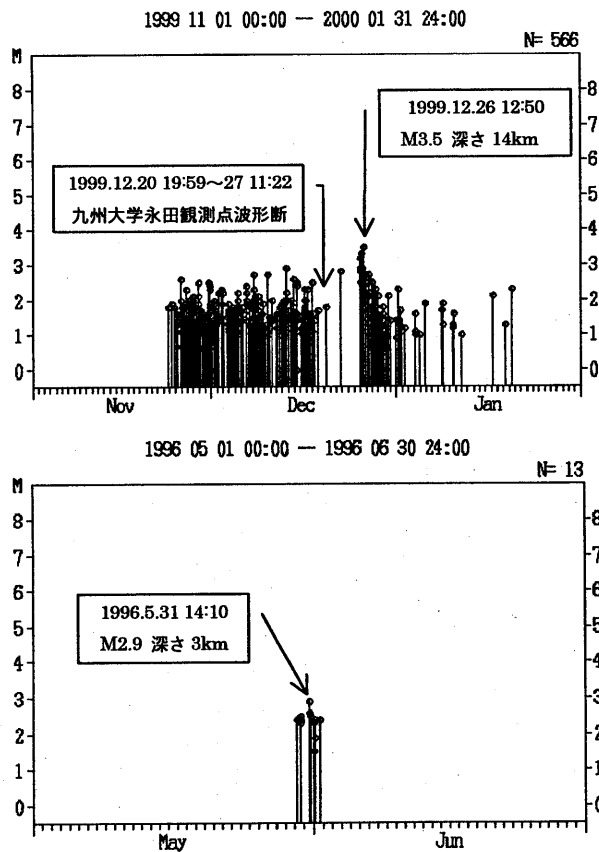
第1図 口永良部島の月別地震回数 (1992年1月~2000年1月)
 Fig. 1 Monthly frequency of volcanic earthquakes at Kuchinoerabujima volcano.
 (Jan. 1992-Jan. 2000)



第2図 口永良部島の日別地震回数 (1999年10月1日~2000年1月31日)
 Fig. 2 Daily frequency of volcanic earthquakes at Kuchinoerabujima volcano.
 (Oct. 1 1999-Jan. 31 2000)



第 3 図 口永良部島周辺の震央分布図 (1996年 5 月 1 日～2000年 1 月 31 日)
 Fig. 3 Epicenter around Kuchinoerabujima. (May 1 1996–Jan. 31 2000)



口永良部島周辺の地震活動 (1996年 5 月 1 日～2000年 1 月 31 日)
 福岡管区気象台の一元化システム (福岡 REDC) による

第 4 図 上図：領域 A の M-T 図 (1999年 11 月～2000年 1 月)
 下図：領域 B の M-T 図 (1996年 5 月～6 月)
 Fig. 4 Upper: M-T diagram of area A (Nov. 1999–Jan. 2000)
 Lower: M-T diagram of area B (May–Jan. 1996)